

【岐阜女子大学】メタデータ項目と記述内容

	メタデータ項目	メタデータ記述欄
1	ID	
2	表題名	観光と「おもろさうし」
3	資料名	勝連城跡
4	内容分類	郷土・歴史
5	索引語	うるま市、勝連、勝連城跡、世界遺産、沖縄最古の城、おもろさうし
6	説明	<p>【勝連城の立地と構成】</p> <p>勝連城跡は、勝連半島にある標高約 98m の丘陵に築かれた東西に細長いグスクである。北は金武湾を囲む北部の山々やうるま市の島嶼（しよ）地域の島々が見え、南には知念半島や中城湾、世界遺産の中城跡が一望できる景勝地である。</p> <p>勝連城は5つの曲輪からなり、各曲輪の城壁は琉球石灰岩の切石を使って曲線状に築かれている。丘陵西側の最も高い曲輪が「一の曲輪」で、その東側に「二の曲輪」、「三の曲輪」、「四の曲輪」と階段状に低くなり、「東の曲輪」は再び高くなっています。勝連城は自然の断崖を利用した難攻不落の城といわれてきたが、城壁は優雅な曲線で築かれている。</p> <p>*曲輪（くるわ）・・・郭（かく）、城郭ともいう。日本の城に関する用語のひとつで、一定のスペースを区切る囲い、あるいはその範囲内のスペースのことを意味する。 参照：東建コーポレーション株式会社、日本の城用語集、曲輪（郭）くるわ、https://www.homemate-research-castle.com/useful/glossary/castle/2126201/（アクセス：2023/11/25）</p> <p>【勝連城の歴史】</p> <p>勝連城跡は 1972 年に国指定史跡に指定され、2000 年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」のひとつとして首里城跡などとともにユネスコの世界遺産に登録された。</p> <p>勝連は歴代の城主による海外貿易で繁栄したとされており、城跡からは多量の中国産の陶磁器や、東南アジア産の陶磁器類、朝鮮の磁器、大和系の瓦などが出土していることから、日本や中国、東南アジアと貿易をしていたことが発掘調査で明らかになっている。これらの出土品から 12～13 世紀に築城されたと考えられている。勝連城の最後の城主は阿麻和利（あまわり；生誕不詳～1458 年／北谷間切屋良村（現・嘉手納町字屋良）出身）である。尚泰久王は王女 百度踏揚（ももとふみあがり）を阿麻和利に嫁がせており、その後、勝連城で起こる数々の出来事は組踊や現在版組踊にもなっている。</p> <p>【勝連城と阿麻和利】</p> <p>勝連城 10 代目按司の阿麻和利（最後の城主）は 15 世紀の琉球王国において勝連半島を勢力下に置いていた按司で、<u>護佐丸・阿麻和利の乱</u>により首里王府への反逆者とされているが、首里王府が編纂した歌集「おもろさうし」では、阿麻和利について肝高（きむたか／ちむたき、気高い／心豊かなどという意味）と表現され、現在でも市民に敬愛されている。</p> <p>*護佐丸・阿麻和利の乱・・・1458 年に起こった琉球王国時代最大の謎と言われる内乱。首里王府を除いた琉球王国の二大勢力、護佐丸と阿麻和利がほぼ同時に消えてしまった。 *百十踏揚・・・阿麻和利に嫁いだ第六代琉球国王である尚泰久の娘で、絶世の美女といわれている。</p>

		<p>*現代版組踊「肝高の阿麻和利」公式ホームページ, https://www.amawari.com (アクセス: 2023/11/25)</p> <p>*護佐丸クロニクル, https://gosamaru-nakagusuku.com/ja/about.html (アクセス: 2023/12/2)</p> <p>*第26回「おもろさうし」ゆかりの地沖縄県うるま市文学散歩, https://jpn.nec.com/nua/sanpo/26/ (アクセス: 2023/12/2)</p> <p>【勝連と「おもろさうし」】</p> <p>琉球最古の歌謡集「おもろさうし」には、勝連（現在の沖縄県うるま市勝連地区）を日本本土の鎌倉に例えた歌をはじめ、勝連の繁栄や、勝連地域に繁栄をもたらした10代目城主である阿麻和利を讃える歌謡(第12章47歌中12歌)が数多く残されている。</p> <p>阿麻和利は、琉球王国時代1458年に琉球国王に抵抗して滅ぼされた人物とされ、王国時代の歴史書等では逆臣とされる一方、阿麻和利が螺鈿（らでん）細工に使用する貝の輸出や、中継貿易に力を入れたことにより勝連の地が豊かになったとされ、勝連地区においては英雄でもある。</p> <p>【現在のうるま市】</p> <p>2000年、「組踊・肝高の阿麻和利」の父母会（現在の「あまわり浪漫の会」）が設立され、翌年から阿麻和利にまつわる歴史を「歌」と「踊り」で表現する現代版組踊「肝高の阿麻和利」が、地元の中学生、高校生によって行われるようになった。現代の子どもたちが魅せる肝高の阿麻和利の組踊は感動的で、全国各地に多くのファンが多くいる。これまで県内をはじめ、東京公演、ハワイ公演など350回以上の公演を開催している（2023/12/25現在）。</p> <p>演技や舞台の完成度は高く、「地域文化の再発見」や「子どもたちの感動体験の場づくり」など、活動そのものが地域振興に貢献している。</p> <p>2001年5月にオープンした「うるま市きむたかホール」では、地域のイベントや現在版組踊などが上演されている。</p>
7	形式	静止画(jpg)
8	氏名	上門礼奈
9	時代・年	撮影日: 2023/12/03
10	地域・場所	うるま市南風原勝連
11	利用条件	表示 4.0 国際 (CC BY 4.0) で提供
12	関連資料1	なし
13	権利者	岐阜女子大学
14	協力者	なし
15	登録日	
16	登録者	上門礼奈

<p>17</p>	<p>ファクトデータ</p>	
<p>18</p>	<p>*特色</p>	<p>■「おもろさうし」とは 「おもろさうし」とは奄美・沖縄諸島に伝わる古歌集であり、ほぼ12～17世紀ごろに謡われたと考えられている。これを首里王府で採録し歌謡集としてまとめたのが「おもろさうし」で、沖縄最古の歌謡集である。</p> <p>■勝連城に関連するおもろさうし</p> <p>一 かつれんわ、なおにぎや、 たとゑる、 やまとの、かまくらに、たとゑる</p> <p>又 きむだかわ、なおにぎや (意識：勝連は、肝高は、あまりに勝れていて何かに譬えようか。それこそ、大和の鎌倉に譬えるのだ。)</p> <p>*勝連・肝高：中頭郡勝連町。肝高は勝連の美称。</p> <p>一 おもろ、とのばらよ、 すゑの、くち、まさしや、 かつれん、ゑらひやり、ちよわれ</p> <p>又 せるも、とのばらよ 又 きこゑ、あまわりや、 くにの、おとちや、なし、よわちへ (意識：おもろ殿原よ、宣るも殿原よ、霊力のあることばの勝れて正しいことよ。勝連を選んで来給うたのだ。名高い阿麻和利を国の縁者としての兄弟になし給いて勝連は栄えることだ。)</p> <p>*おもろ殿原・宣るも殿原：おもろの歌唱者。殿原はおもろ謡いの人たちの敬称</p> <p>*精の口正しや：霊力のある言葉(予言)の勝れて正しいこと。</p> <p>*阿麻和利：人名。勝連城跡の主。</p> <p>一 あがる、もちづきぎや、 きみの、もちづきぎや、 きよらやの、たまの、みうち、 みちやる</p> <p>又 たかへすの、こらが、 むかいたる、ほこらしや</p> <p>又 あが、なさいきよ、こらが</p>

(意識：名高い望月神女が、君の望月神女が神遊びをなさる。勝連城内の聖域の玉の御内御嶽を見たことのあるすばらしさよ。高江洲の男たちが我が領主の臣下たちが、神迎えしたことの誇らしさよ。)

*揚がる望月：名高い望月(神女名)

*清ら家の玉の御内：勝連城内のお嶽

*高江洲：地名。具志川市高江洲。

一 かつれんわ、てだ、むかて、
ぢやう、あけて、
まだま、こがね、よりやう、
たまの みうち

又 きむだかの、月 むかて

又 かつれんわ、
けさむ、みやも、
あんじ、ゑらぶ

(意識：勝連は太陽に向かって、肝高は月に向かって門を開けて、真玉、黄金が寄り集まる玉の御内御嶽であるよ。勝連は昔も今も按司を選んで栄えていくよ。)

*玉の御内：勝連城内のお嶽

*けさむ：昔も。「けさ」は昔

一 せだか、おわもりや、
きみの、あまわりや、
せぢだか、あんじおそい、
おやと、しなよわれ

又 かつれんは、げらへて、
げらへ、かなしげや

又 きむだかは、げらへて

(意識：霊力豊かなおわもり神女、君のおわもり神女はお祈りをします。霊力豊かな按司様は親と調和し給え。勝連を、肝高を立派に造営して勝れて立派な愛しけ様はお栄えになることだろう。)

*精高おわもり：霊力豊かなおわもり(神女名)「精高」は美称辞。

*あまわり：「おわもり」の誤写であろう。

*げらへ愛しけ：勝れて立派な愛しけ。「げらへ」美称辞。

一 おとゝきみ、きみまさり、
あんじの、つんじ、
おとぢや、より、まさり

又 あねの、きみノ、しない

(意識：妹神女である君勝り、姉神女である君撓いは、霊力豊かで勝れている。最高の按司である弟者より、勝れているよ。)

*妹君勝り：妹なる神女の君勝り。

*按司の頂き：最上の按司の意。「つんじ」は「つぢ」に同じで、最上、頭の意。

*姉の君撓い：姉なる神女の君撓い。

一 かつれんは、いきやる、
かつれんが、

しまの うらに、とよませ
又 きむだかは、いきやる、
きむだかが

(意識：勝連は、肝高は、どのように勝れた国なのか。島々村々にその勝れぶりを鳴り轟かせよ。)

*如何る：如何なる。どのように。

■阿麻和利に関連するおもろさうし

一 かつれんの あまわり
かつれんの あまわり
とひやくさ ちよわれ
又 きむたかの あまわり
又 かつれんと にせて
又 きむたかと にせて

(意識：勝連の阿麻和利／千年もこの国を治めよ、／又、気高き阿麻和利よ／又、勝連にふさわしく／又、きむたかの名にふさわしく)

*肝高：勝連の美称。靈力豊かな所。

一 あおりやへが、みやの、とよみ、
あんじ、ほこる、
又 せだかこが、みやの、とよみ
又 かつれんの、みやの、とよみ <→171>

(意識：煽りやへ神女の神庭が、靈力豊かなお方の神庭が、勝連の神庭が鳴り轟いて按司様が誇り給う神庭の鳴り轟いていることよ。)

*煽りやへが庭：神女煽りやへが守護し給う神祭りをを行う広場。

*按司誇る親庭：按司が祝福し給う親庭。

*親庭：親なる庭。神庭の敬称。本例のみの語重複オモロの 171 番では「おみや」。

*精高子：神女の美称。煽りやへのこと。

*勝連：地名。中頭群勝連町。

一 かつれんの、あまわり、
たま、みしやく、あり、よな
きや か、まくら
けれど、いちへ、とよま
又 きむだかの、あまわり
又 しまぢりの、みそでの、あんじ
又 くにしりの、みそあんじ
又 しより、おわる、てだこす、
たま、みしやく、ありよわれ

(意識：勝連の阿麻和利、肝高の阿麻和利は、神酒を注ぐ玉御柄杓を持っているよ。大和の京、鎌倉にまで、これをぞいい囃して鳴り轟かそう。島を国を支配し治める高貴な按司様、首里にもします国王様こそ、神酒を注ぐ玉御柄杓を持ち給うのだ(阿麻和利を首里の国王と並べて讃えたおもろ)

*島知りの御袖の按司・国知りの御袖按司：按司・領主の美称。島知り、国知りは島々、国々を支配するの意。「御袖」は高貴な生まれの意で貴人に対する美称。

*てだこ：王の尊称。

※最終節で阿麻和利讃美のオモロが首里の国王讃美に変わっているところが問題である。

一 つるこ、たしよ、よりよれ、
みるめの、かなしや、
ま人は、よりよれ、

又 かつれんの、てだ

(意識：優れた人たちこそ寄っているのだ。皆の見る眼がいとおしくあるからこそ、民衆は寄っているのだ。それほど勝連の按司は立派なのだ。)

*つるこ：優れた人。 *見る眼：衆目の見るところ。 *真人：一般の人。民衆。

一 もちづきぎや、
かみにしやが、おれたち、
しまの、うらに、とよませ

又 かつれんの、たゝみきよ、
しられゝ

又 きむだかの、たゝみきよ

又 はまがわの、なみ、うちぐら、
おれわちへ

(意識：望月神女の、神にしや神女の降り立ちです。島々村々に鳴り轟かせなさい。勝連の貴いお方、肝高の貴いお方に知られよ。浜川の波打際に降り給いて、勝連の按司と神女(神)ち調和し給え。)

*望月：神女名。

*神にしや：神女様。

*浜川：勝連町南風原の浜川。

*波打ち口：波打際

一 つるこ、にくげしや、
よかる、にくげしや、
ゑ、け、人おそて、
みよわれ

又 うまがなし、めしよわれ

又 あからかさ、さしよわちへ

(意識：つるこにくげしや様よ、良かるにくげしや様よ、ゑけ、人を守り支配し給え。立派なお馬に乗り給え。赤い傘を差し給いて人々を守り給え。)

*つるこにくげしや・良かるにくげしや:勝れて立派なにくげしや様。貴人の美称。

*ゑけ:あれ。感動詞。

*馬加那志:お馬様。

一 かつれんの、とよみ、てだ、
もゝうら、とよみ、てだ

又 きむだかの、とよみ、てだ

又 かつれんの、いちや、ぐち

又 きむだかの、かなや、ぐち

又 かみからは、てる、まばま

又 下からは、はま、がわに

(意識：勝連の、肝高の名高く鳴り轟く按司は、国中に鳴り轟く按司である。勝連の、肝高の立派な入口(港)は、上からは照間浜、下からは浜川である。)

		<p>*勝連の鳴響みてだ・肝高の鳴響みてだ：勝連の名高き按司様、領主様。 *坂口・金口：勝連にある港の美称。 *上・下：勝連を中心に北部は上、南部は下。 *照間浜：勝連半島与那城町照間の浜。</p> <p>一 かつれんの、あまわり、 きこゑ、あまわりや、 ぢやぐにの、とよみ 又 きむだかの、あまわり (意訳：勝連の阿麻和利、肝高の阿麻和利は立派である。名高い阿麻和利は、国の鳴響み人として評判である。) *大国：国の美称。 *肝高：勝連の美称。心豊か、気高いの意。 [第十六 首里天きやすへあんじおそいがなし 勝連具志川おもろの御さうし 天啓三年癸亥三月七日] *外間守善 校注(2000)『おもろさうし 下』、岩波書店 *波照間永吉(2023),『おもろさうし 下』,ゆまに書房</p>
19	*活用支援	
20	*利用分野	教育、生涯学習、地域学習、観光
21	*改善結果	
22	*処理プロセス	
23	*関連資料2	